

「視察旅行」

世界を知れば
ビジネスの幅もぐんと広がる

株式会社 東亜

代表取締役 **山口 恵司氏**



— 3年前にはスイスの機械工場も訪問。そこで目にした最先端ロボットが現在、御社で無人化第一号機として稼働していますね。

パソコンの指示で材料の入れ替えを完全無人で行い、24時間製造できる金属加工機です。導入早々航空機部品の試作を手掛けるなど、社内にはわかに活気づいています。旅での収穫は本業以外にも。ドイツ郊外には広大なトウモロコシ畑が広がっていますが、収穫後はアルコールに変えガソリンの添加物にするそうで、循環型社会の進化を見せつけられました。またイギリスのEU脱退後、金融の中心はロンドンからフランクフルトに移るとして、現地では10万人の人口増を見込んだ高層ビル建築が進んでいる。メディアが報じないところで、様々な動きがあるんですね。次はオランダ、ベルギーに行く予定。何らかのヒントを得てビジネスに活かしたいです。

Profile

■山口 恵司 (やまぐち・けいじ)

昭和37(1962)年生まれ、56歳。大学卒業後、須坂市の電子部品メーカー勤務を経て34歳で家業を継ぐ。座右の銘は「人事を尽くして天命を待つ」。趣味はほかに音楽鑑賞、ゴルフ。

■株式会社東亜

昭和18(1943)年創業。工作機械の大型部品加工、医療機器・自動車・電子機器等の小型部品加工、特装車の架装・改造・整備点検。本社長野市若穂町内315-12。



会員の趣味を紹介するシリーズ。今月は株式会社東亜代表取締役の山口恵司さんに、ビジネスを大きく変えた旅での出会いを聞いた。

—海外への視察旅行に積極的そうですね。

きっかけは、以前勤めた須坂市の電子部品メーカーの社長の言葉でした。「若いうちはどんどん外に出て見聞を広めなさい」が口ぐせで、社員同士での海外旅行には会社が費用の一部を負担してくれる徹底ぶり。10年間で東南アジアやハワイ、アメリカ西海岸を旅し、先々で文化やスケールの大きさに刺激を受け旅の重要性を肌で感じた経験から、家業を継いだ後も渡航の機会を窺っていました。そんな折、ある大手電機メーカーの工場でドイツ人が日本人従業員に技術指導する現場に遭遇。「日本の技術が最先端だなんて大間違い。我々が学ぶことはドイツにたくさんある」の担当者のひと言に、これはもう行くしかない。現地の工場見学に出かけたのが6年前のことです。

—そこでビジネスに通じる発見があったと。

まずは徹底した合理化に圧倒されました。日本はいま働き方改革が叫ばれていますが、ドイツは当時既にロボットによる無人化が当たり前。人が関わる製造現場では、従業員の負担軽減を軸に工作機械のパネルや装置の位置が設計されていたり、日本の機械は鉄製ですが、ドイツは振動や温度変化を吸収しやすいという理由で基幹部分はコンクリート製だったり、発想の違いに驚かされました。工場のすぐ側には国立公園があって、大自然と建屋が見事に調和。見るもの全てが衝撃でした。